

《教育長メッセージ 第25号》

『小中一貫教育2』

前回、子どものよりよい成長のために学校のシステムを改善することが「小中一貫教育」であるということを説明しました。

それでは、具体的にどのように改善を進める必要があるのでしょうか。

まずは、小学校の教員と中学校の教員がお互いをよく知り合うことが大切だと思っています。世界一忙しいと言われる日本の教員ですが、時間を取って小中の教員が話し合う時間が必要です。研究校の有馬中学校区では、勤務時間後に小中の教員がスポーツで時間を楽しみ、懇親会を行いました。そこから始まる取組だと私は思うのです。

各小中学校には、学校教育目標があります。子どもたちの実態や地域の特色を踏まえて、めざす子どもの姿をイメージして、一年間の目標を立てます。そして、それを学校教育計画として綿密に計画を立てて教育実践に取り組むのです。

私は、各学校で行っているのと同じように中学校区として教育目標を立てて、9年間の教育計画を策定して、取り組む必要があると考えています。そのため、平成28年度は中学校区の校長の話し合いの場を定期的に行っていきます。これまでも校長は近隣の学校に校長と情報交換をしながら学校経営を進めてきましたが、定期的に行うのは、初めての試みです。

また、各学校では、校内研究として、学習指導法や学級づくりなどの研修を行っています。お互いの授業を見合って、話し合いをし、教員としての資質・能力の向上に努めています。これまでは、学校内だけの取組でしたが、これからは、中学校区の教員がお互いの校内研究に参加するようなシステムを展開していきたいと考えています。小学校の良さ、中学校の良さをお互いに共有し、日々の教育実践に生かすことが、授業の主体である子どもたちが授業を真に楽しむことにつながるからです。

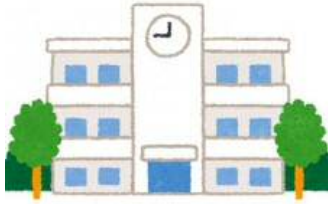
他に、各中学校区では子どもたちの交流を進めています。海老名小中学校、有馬小中学校などの校地が隣り合わせとなっている学校では、日常的な交流を図ることができます。離れている場合でも、必要に応じてはバスを利用するなどして、交流を促進していきたいと考えています。交流により、小学生にとっては、中学校での自分を具体的にイメージでき安心感が生まれます。中学生にとっては、小学生に中学校のことを教えたり、話したりすることによって、年長者としての自分の必要性を確かめ有能感を持つことにつながります。

今後も、中学校区ごと、さまざまな改善の取組が進められることによ

う。保護者や地域のみなさんには、小中一貫教育の取組を理解していただき、学校を支援していただきたいとお願いいたします。

よろしく申し上げます。

これからは、子どものよりよい成長のために、子どもが学校に合わせるのではなく、学校が子どもに合わせていくことが大切になります。



次回は、『母親』についてお話ししたいと思います。